



MieTLO

MIE TECHNOLOGY LICENSING ORGANIZATION

三重 T L O 技術情報クラブ会報

No. 7 2004 年 6 月

CONTENTS

| | | | |
|----------------|-------|-------------------------|---|
| 会長, 社長就任, 退任挨拶 | 1 ~ 2 | 技術移転及び特許情報 | 6 |
| 研究室紹介 | 3 | 三重 T L O 交流会 | 7 |
| 会員企業紹介 | 4 | みえメディカル研究会総会 | 7 |
| 営業報告 | 5 | 催し物, 行事案内・会員数, 共同研究等仲介数 | 8 |

会長就任のご挨拶

三重 T L O 取締役会長 矢谷 隆一



去る 6 月 23 日の取締役会で (株) 三重 T L O の取締役会長に就任いたしました。就任に際し、挨拶に代えて国立大学法人三重大学の発足と三重 T L O の今後の関係等について簡単に説明したい

と思います。

株式会社三重 T L O は、平成 14 年 2 月 7 日に設立され、平成 14 年 4 月 16 日に経済産業省と文部科学省の承認 T L O として認可され、その活動は時を迫って活発化しています。

当社は、地域経済の活性化及び大学等の研究活動の活性化を図るため、次の 5 つの事業を営むことを目的としています。① 大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する事業、② 知的財産権の開発、取得、啓発及び普及に関する事業、③ 研究開発に伴う技術者指導及び経営コンサルティングに関する事業、④ 情報誌、書籍及びソフトウェア等の出版、電子出版及び販売の事業ならびに⑤ それらに付帯関連する一切の事業、です。

一方、当社と関係の深い三重大学は、平成 16 年 4 月 1 日より国立大学法人三重大学として新しく発足し、教育、研究及び社会貢献の社会的使命を果たすため、規程の全てが新しく制定され、より

効率的な大学運営に努力が払われています。

このうち知的財産の取り扱いに関しては、三重大学知的財産ポリシーが公表され、国立大学法人三重大学知的財産規程が制定されました。そこでは、知的財産の権利化、組織事務体制、知的財産の取り扱い、技術移転機関及び守秘義務等が盛り込まれています。

これまでは、大学教員が創出した知的財産の多くは研究者自身に帰属していましたが、法人化後の知的財産は、原則として国立大学法人三重大学に帰属することになっています。そのための特許化やその活用に関しては、膨大な作業量を伴うこととなり、技術移転機関との関係はさらに重要視されなければならない状況になっています。

三重大学と三重 T L O が一体的に技術移転の業務を行っていくためには、細部にわたっての系統的で緻密な協議が必要となります。

各方面からのご意見をいただき、よりよい関係となることを願っています。



社長就任のご挨拶

三重TLO代表取締役社長 菅原 庸



このたび三重TLO社長に就任致しました。妹尾前社長同様よろしくお願ひ致します。

さて、三重TLOが本格的に稼働して2年余りになりました。その間、本年4月に国立大学が法人化され、さらに、知的財産の原則機関帰属化というポリシーの大きな変化にともない、三重TLOは、設立3期目にあたり、大きな転換期を迎えました。

設立以来、研究成果の社会還元、地域産業・地域の活性化をめざし、三重県下の高等教育機関および公的研究施設の研究者と企業の方々との人的・知的ネットワークの形成、共同研究の実施、知的財産の出願・実施(技術移転)など、事業もようやく軌道にのりかけた状態にあります。

TLOの事業を支えるものとして、会費収入とともに経済産業省の補助金が大きな割合を占めており、補助金制度が終了する平成18年度までに、

自己収入をめざした新たな展開をはかり、自律的に活動することが求められております。そのためには、TLO資本の増強・充実とともに、株主や会員の方々に対する新たな展開をはかる必要があります。

一方、大学・高等専門学校・公的研究施設のそれぞれに知的財産を扱う部署が整備されつつあります。国立大学法人三重大学の戦略プランの中にも、「地域振興や社会の発展に貢献できる研究を推進し、成果を社会に還元する」とあり、学術的知的成果や技術の地域産業への移転には、TLOとの密接な連携・協力が不可欠であり、役割分担を明らかにして、対外的な窓口業務も解りやすくする必要があります。

三重TLOは、地域自治体・関連諸団体・企業の皆さま方とますます密接に連携をとりながら、同時に研究機関の先生方の協力を得ながら、研究機関の活性化、地域社会の活性化、新たな事業展開による産業の活性化に役立つよう努めて参りたいと思っておりますので、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。

社長退任のご挨拶

三重TLO取締役副会長 妹尾 允史



世界的なプロパテント(知的所有権の重視)の流れの中で設立された(株)三重ティーエルオーも3期目を迎え、設立時の手探り状態を脱してこれから地域と大学の

活性化のために大きな活動をすべき重要な時期にきております。

大学が社会に果たすべき役割の一つとして、有効なパテントを創造・取得・流通させて、地域社会の活性化に役立てると言うことを目標に、平成10年度に『大学等技術移転促進法』が制定されました。

これを受けて、三重県等の公共団体・財団およ

び県内各高等教育機関のご協力を頂き、3年余りの調査・準備期間を経て平成14年2月に本社がスタート致しました。全国で27番目の承認TLOとして、ニーズ会員およびシーズ株主の皆様方の多大なご協力を賜り、業務を遂行してきたところであります。

このたび本社の設立に当たってもっとも熱心に推進されました、当時の矢谷隆一学長および菅原副学長をそれぞれ会長および社長にお迎えし、三重TLOのさらなる発展を期すこととなりました。これを機に社長を交代することとなり、今後は取締役の一員として微力を尽くしたいと思います。

準備の時代から数えますと6年近くになりますが、この間の皆様方のひとかたならぬご支援を心より感謝致します。有り難うございました。

◆ 研究室紹介 ◆

三重大学医学部整形外科学教室

三重大学医学部整形外科学教室は、1996年より内田淳正教授が力強く牽引しており、臨床的研究のみならず、多くの基礎的研究にも取り組んでいる。教室員の構成は、教授1名、助教授1名、講師3名、助手4名、医員5名、大学院生6名、留学生1名であり、本稿では、腫瘍班、上肢外科班、関節班、脊椎班における基礎的研究について簡単に紹介したい。

腫瘍班（内田淳正、楠崎克之、松峯昭彦、友田良太）の研究テーマは、軟骨肉腫の遺伝子治療のための基礎的研究、悪性神経鞘腫の遺伝子診断、癌細胞の骨転移メカニズムの解明および転移抑制



剤の開発、磁性体混合人工骨を用いた温熱療法の開発、アクリジンその他の色素を用いた体外エネルギー励起治療法の開発などで、本教室のメインテーマである骨軟部腫瘍に関する基礎的研究を数多く

行っている。上肢外科班（平田仁）の研究テーマは、末梢神経外科に関する基礎的研究であり、最近では、人工神経の開発をはじめ、再生医療やtissue engineeringの分野での研究が進んでいる。関節班（須藤啓広、長谷川正裕）の研究テーマは、人工股関節再置換術用の新しい人工股関節の開発、骨欠損補填用のハイドロキシアパタイトの開発、新しい関節液の生化学マーカーの開発、人工軟骨の開発などである。また、脊椎班（笠井裕一）の研究テーマは、椎間板再生の研究、脊椎不安定性測定器の開発、新しい脊椎インストルメンテーションの開発、形状記憶合金を用いた新しい医用材料の開発などである。

以上の各班における基礎的研究は、臨床に直結している研究が多いため、既に臨床応用されたり、商品化されたりしているものが多い。

三重大学医学部整形外科学教室は、「よく学び、よく遊び」「健康、家庭、仕事」をモットーとし、厳しい中にも自由で和気あいあいとした雰囲気があり、非常に働きやすい環境の研究室です。三重TLOおよび会員の皆様には、これまで以上に御支援御協力を賜りますよう宜しく御願ひ申し上げます。

三重大学人文学部社会科学科 社会管理研究室

教授 渡邊 明（経営学総論・企業間ネットワーク論担当）

〈大学の産業支援とインターネット利用の研究〉

私の研究室ではReal Serverとインターネットを利用したTV会議システムを構築して産学官共同の産業活性化施策の可能性を模索している。

昨年度（2003年度）は、JETRO（日本貿易振興機構）との共同講義という形式の「特殊講義B 各国経済・経営事情（2003年度・後期）火曜日5・6限」は、インターネット上でストリーミング形式のオンデマンド（Real Player）で講義を配信した（14回の講義は、三重大学人文学部・渡邊研究室HPから見る事ができる）。毎回、東京のJETRO本部から講師を派遣していただいて学生諸君と地元の企業に向けて最新の海外情報を提供した。学生諸君からはレポートを提出してもらいe-learningの実験も行っている。

一部のJETROとの共同講義を渡邊研究室のTV会議システムを使って実験的に桜美林大学、静岡大学、高知短期大学の教員とリアルタイムに流してみた。オンデマンド形式で流している講義の中で一番アクセスが多かった中国問題に限定して最終回を「中国で展開する日本企業－問題点と課題－」と言うタイトルでパネル・ディスカッションを行

った。JETRO本部からは、中国問題に精通している石川幸一氏を派遣していただいた。当方からは、中国に進出して成功している地場の中小企業の廣瀬精工(株)の廣瀬専務、現在進出を検討している(株)光機械製作所の西岡社長、CADコンサルタントの下山憲二郎氏（TV会議で宇都宮市から参加）、櫻谷勝美教授と渡邊（コーディネータ）が参加した（詳細は、三重大学人文学部・渡邊研究室HPから見る事ができる）。

本年度（2004年度）は、4つの大学と東京都葛飾区の10社程度の企業の経営者や社員とで経営学総論及び大学院の企業間ネットワーク論の講義の一部をReal Timeに流しあって、双方向性を担保したケース・スタディの可能性を確かめる実験の準備をしている。5月の連休中に「ヤマダ電機のDCM」という実態分析を実験的に流してみたが好評であった。このような試みは、Management SchoolやMOTがインターネットの中で可能か否かを確かめる研究の一環である。



◆ 会員企業紹介 ◆

株式会社 赤塚植物園

当社は1961年に現社長である赤塚充良が津市高野尾町にて創業し、1972年に会社設立いたしました。会社設立と同時にブラジルに(有)ブラジル赤塚植物園を設立、1974年に米国ハワイ州に(株)ハワイ赤塚植物園を設立、2002年にタイ国に(株)アカツカナーセリータイランドを設立し現在に至っています。

創業以来「園芸植物の生産と販売を通して、心豊かな人間社会を実現すること」を目指して、誰も手がけていなかった「三重サツキ」の大量栽培を開始しました。近隣の農家にも広めたことから、現在では三重県がサツキの生産高で全国一位となっています。並行して国内最大規模のさし木用のミスト温室を津市に建設し、花木を大量生産する基礎を築きました。

1967年には日本で初めて洋ランの組織培養技術を確立し、大量生産を手掛けてきました。その



他、ブライダルベール、ボストンファンなどの吊り鉢用観葉植物の流行の火つけ役になるなど、積極的な事業展開で園芸業界をリードしてきまし

た。また、洋種ベニカナメや西洋シャクナゲといった現在では大衆的な植物も当社が日本に紹介したものです。

当社では創業40周年を記念して2001年に本社の西隣に約2000坪の温室農場「ユートピアファーム」を建設いたしました。この施設は高齢者に花や野菜作りに親しんでいただくことにより、働く喜びや生き甲斐を提供することを目的としています。育てられた草花は、商品として販売されるほか、学校や福祉施設といった公的施設に寄付され、地域の美化運動にも利用されています。

1985年から生物の生命力を高める「鉄分の働きによる特殊な水」を研究し、FFCテクノロジーを提唱してきました。FFCテクノロジーとは「水の生命を甦らせる技術」です。この技術を駆使することにより、環境、経済、健康に大きな効果をもたらすことが可能になります。

2005年には「愛・地球博」のバイオラング事業をオフィシャルパートナーとして応援し、博覧会メインパビリオン(グローバルハウス)の緑花壁をFFCの霧で包み込むような工夫をして「自然の叡智」を実現する趣向です。また、同年夏には、FFC国際フォーラムを開催予定。それらの事業を橋かけに2006年からは、海外に向けてFFCの情報を発信する予定です。

コスモ電子株式会社

〒510-0844 三重県四日市市宝町1番地
TEL 0593-49-1120
FAX 0593-49-1141

<http://www.is003.com/test/cosmo/index.html>

東洋紡績株式会社が、電子産業分野へ業種転換するため、東洋紡績塩浜工場を閉鎖し、100%出資のコスモ電子株式会社を昭和56年6月設立し、ほぼ23年を経過いたしました。

電子産業へ参入するためOEM事業からスタートし、先ず昭和56年9月に基板実装を立上げ、次いで昭和58年7月半導体の後工程IC組立を実施、その半導体テスト技術者を活用して半導体エージング装置の開発・設計・製作事業を昭和60年立上げました。昭和61年東洋紡績株式会社のFPC製造事業がスタートし、ほぼ現在の弊社の基盤ができました。

しかし、平成に入り、IC組立事業が海外シフトにより閉鎖となり、更に半導体テスター機器の販売も殆どなく、苦難の日々が続きました。関係者で市場調査し、戦略を見直し、平成6年の小型LCD組立事業導入を機に、LCDモジュールのトータルソリューションを目指そうと事業転換を図ることになりました。

そしてOEMのLCD組立事業、LCDリペアセンター、LCDの表示不良を検査する点灯信号

発生器の開発・設計・製作事業、PDP用ポリアミドイミドFPCを開発・設計・製造し、グローバルに展開することで、現在はほぼ順調に推移しています。ただ仕事を受けるだけでなく、顧客満足を第一に精励・努力してきた成果がようやく実を結んできたものと思っています。

昨年11月より三重県FPD産業開発補助金の交付を受け、「偏光板不要の省エネ・省資源型液晶光シャッター及びこれを用いた表示デバイスの開発」に取り組んでいます。大変ありがたい制度であり、成功を誓い、努力しております。

また、三重TLOに一昨年入会させて頂きました。ますます産学官の連携のもとに、三重クリスタルバレー活動がさらなる成果を出すためにも一層の学官の支援をいただくことが重要と考えています。

弊社もお陰さまで、平成15年度売上142億円と過去最高の結果となりましたが、電子業界の変化の激しさを目の当りにしている現実を考えれば、もっともっと強固な技術力と製品開発に力点を置いていく必要性を痛感しています。



第3期 営業報告 (自 2003年4月1日 至 2004年3月31日)

I. 営業の概況

事業につきましては、大学等の教員との研究成果に関する連携を深める中で、当年は、特許出願に向けてシーズの発掘に力を注ぎました。また、大学等の教員の研究成果を積極的に活用していただくために、企業を対象に登録会員制度を設け会員獲得に力を注ぎました。

当年度の収支につきましては、収入面は、会費収入・指導料・共同研究斡旋手数料等は、29,270,746円・みえメディカル研究会が5,563,810円・NEDO関係が4,952,384円、合計39,786,940円となりました。

支出面は、販売費及び一般管理費が34,285,123円となり、税引き前当期損益は、6,241,736円となり、法人税等は2,153,700円支払い、当期余剰は4,311,068円となりました。

当社は、今後も引き続き大学等の教員、企業および関係諸団体と連携を図り、事業の発展に全力を傾注してまいり所存でございます。

II. 会社の概況 (2004年3月31日現在)

1. 主な事業

大学等における研究成果の産業界への移転に関する事業

2. TLO承認

2002年4月16日文科科学大臣および通商産業大臣から「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」第4条に基づく承認を受けました。

3. 取締役および監査役

| 氏名 | 地位 | 主な職業 |
|-------|---------|-----------------|
| 妹尾 允史 | 代表取締役社長 | 三重大学名誉教授 |
| 菅原 庸 | 取締役 | 三重大学副学長 |
| 徳田 正孝 | 取締役 | 三重大学地域共同研究センター長 |
| 国見 武 | 取締役 | 三重大学客員教授 |
| 円城寺英夫 | 取締役 | 三重大学客員教授 |
| 岡本 一朗 | 取締役 | 三重大学生活協同組合専務理事 |
| 辻本紳一郎 | 監査役 | (株)百五銀行 |

損益決算書

(自2003年4月1日 至2004年3月31日) (単位: 円)

経常損益の部

【営業損益の部】

【営業収益】

【売上高】

売上高 39,786,940
売上高合計 39,786,940

【営業費用】

売上総利益(損失) 39,786,940

【販売費及び一般管理費】

販売費及び一般管理費合計 34,285,123

営業利益(損失) 5,501,817

【営業外損益の部】

【営業外収益】

受取利息 2,760

雑収入 882,812

営業外収益合計 885,572

【営業外費用】

繰延資産償却 145,653

営業外費用合計 145,653

経常利益(損失) 6,241,736

税引前当期純利益(損失) 6,241,736

法人税等 2,153,700

当期純利益(損失) 4,088,036

前期繰越損益 223,032

当期未処分利益(損失) 4,311,068

貸借対照表 (2004年3月31日現在)

資産の部

| | |
|-----------|------------|
| I 流動資産 | |
| 現金・預金 | 18,581,697 |
| 未収金 | 10,848,491 |
| 仮払金 | 160 |
| 流動資産合計 | 29,430,348 |
| II 固定資産 | |
| 1. 有形固定資産 | |
| 建物付属設備 | 478,417 |
| 有形固定資産合計 | 478,417 |
| 2. 無形固定資産 | |
| 電話加入権 | 66,000 |
| 無形固定資産合計 | 66,000 |
| 固定資産合計 | 544,417 |
| III 繰延資産 | |
| 創立費 | 291,306 |
| 繰延資産合計 | 291,306 |
| 資産の部合計 | 30,266,071 |

負債の部

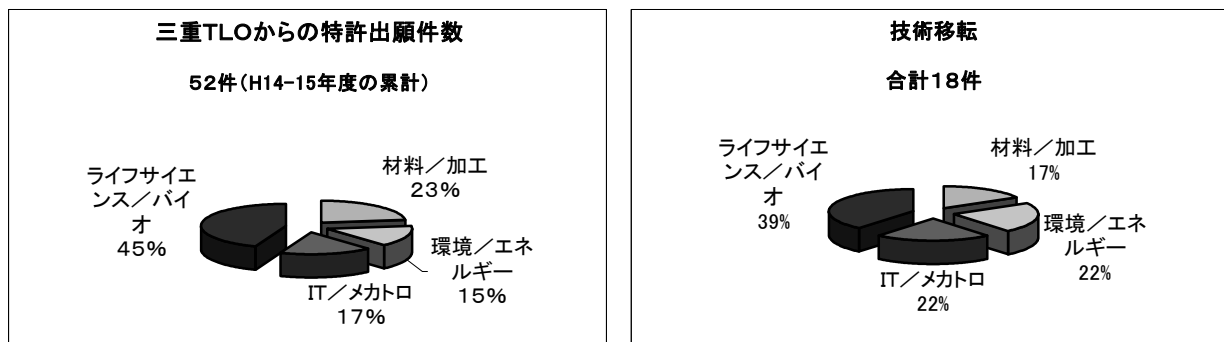
| | |
|--------|------------|
| I 流動負債 | |
| 未払法人税等 | 2,153,700 |
| 未払費用 | 1,868,546 |
| 預り金 | 6,932,757 |
| 流動負債合計 | 10,955,003 |
| 負債の部合計 | 10,955,003 |

資本の部

| | |
|-------------|------------|
| I 資本金 | 15,000,000 |
| 資本金合計 | 15,000,000 |
| II 利益剰余金 | |
| 当期末処分利益(損失) | 4,311,068 |
| 利益剰余金合計 | 4,311,068 |
| 資本の部合計 | 19,311,068 |
| 負債・資本合計 | 30,266,071 |

三重TLOにおける技術移転および特許情報

三重TLOからの特許出願および技術移転状況（H16. 5. 28現在）は、下図のようになっています。なお、技術移転は、オプション契約、実施契約を含んだ数字です。図のように、出願件数の1/3が技術移転に結びつき、中でもライフサイエンス/バイオテクノロジー関連特許が、出願および技術移転ともに活発に推移しております。



下表は、H16. 1月～3月の出願特許の概要です。

| | 名称 | 概要・用途 |
|--------------|-----------------------|--|
| ライフサイエンス/バイオ | エゾウコギを用いた予防薬 | エゾウコギ等の生薬から抽出した成分を、パーキンソン病の治療および予防薬に用いる。 |
| | サルモネラ菌検出用デバイス | サルモネラ菌を短時間に検出する簡易デバイスであり、従来法に比べ操作が容易である。 |
| | DNAチップによる疾患関連遺伝子の抽出方法 | 血液から調整された遺伝子とDNAチップを用いて、パーキンソン病等の疾患を検出する。 |
| | 心機能の定量評価 | 造影MRIおよびシネMRIにより得られる画像に、特殊なフィルター処理、画像処理を施すことにより、心機能を定量的に評価する。 |
| | 柑橘類の幼果を原料とする機能性食品 | 柑橘類の幼果は、有用成分を多量に含むものの苦味等があり、活用されることが少なかったが、本発明により苦味成分を簡易な工程で除去できるようになった。 |
| | 抗酸化物質 | 人に常在する菌に、自然劣化の無い抗酸化物質を分泌させるもので、化粧剤、皮膚外用剤等に用いる。 |
| 材料 | 光学活性なジアシルグリセロール | ヒマシ油を加水分解して得られる光学活性な異性体であり、食品添加剤、医薬前駆体、化粧品添加剤の添加等に用いる。 |
| | 樹木状高分子電解質膜 | 耐熱性があり、低湿状態でも良好なプロトン伝導性を有しており、固体高分子型燃料電池の電解質膜に用いられる。 |
| 環境 | 水素産生用発酵装置 | 食品廃材等に含まれるデンプン質を特殊なバクテリアにより分解させ高効率に水素を得る。得られた水素は、燃料電池用原料とする。 |
| 機械加工 | 背板形状を調節可能な椅子 | 身体的特徴に合わせて椅子の背板を調節可能で、多様な体形にも少ない部品で対応できるため、汎用性、コストに優れる。 |
| | 簡易基礎の集合体 | 公園、緑地等に柵、橋、ベンチ、遊具等の建造物を支持するための簡易基礎であり、軽量で、搬送や設置が容易である。 |

上記に対するお問い合わせは、下記までお願い致します。

(株)三重TLO 黒淵達史 (技術移転部長) email:kurobuchi-ad@adp.jiii.or.jp
Tel 059-231-9822

第六回 三重ティーエール交流会を開催

日時：平成16年3月8日（月）

14：30～18：45

場所：三重大学講堂 小ホール

内容：

(1)開会あいさつ 三重大学学長 矢谷 隆一
4月の法人化後は財政的な厳しさも予想される。また、企業による大学の選別も始まっている。本学は産学官の連携による地域貢献の重要性を認識しており、TLOともども、ご支援願いたい。

(2)大学との共同研究の紹介

①(有)養鶏場 代表 世古好弘

(生物資源学部 光永助教授との共同研究)
竹炭、竹酢液を鶏の飼料や養殖魚の餌に配合したところ、病気やへい死の減少および卵、魚の品質に好結果を得ている。また、鶏糞処理でも脱臭、抗菌等で好結果を得ている。この科学的エビデンスを得るため、有効成分の探索等で共同研究を進めている。

②中山水熱工業(株) 代表取締役 中山慎司

(工学部 榊井助手との共同研究)
榊井先生にソフトウェア開発の支援を得て、共同開発したデータベースからの知識抽出

「トラブル管理支援システム」は、既存のデータベースを設備管理に利用している。また、品質管理、顧客サービス、トラブルシミュレータとした教育訓練ツールとしての応用にも活用できる。

(3)講演 「気功を科学する」

東京電機大学 教授 町 好雄

四千年以上の歴史のある「気功」は代替医療として、また、西洋医療と複合した総合医学として注目されている。気功の種類及び内容について解説するとともに、気功による生体の変化を脳波、心電図、血流、血圧、筋電図、呼吸、超音波エコー、サーモグラフィー等により測定することにより、気功を科学的に解析する研究を進めている。その他、中国での念写の実験結果についても示した。

(4)閉会あいさつ 副学長 菅原 庸

(5)懇親会

開会 徳田地域共同研究センター長

乾杯 豊田次期学長

中締め 円城寺取締役



平成16年度 みえメディカル研究会総会を開催

三重県が進めているメディカルバレー構想(医療・健康・福祉産業の創出と集積)推進事業の一環として、「平成16年度みえメディカル研究会総会」が5月13日に三重大学(三重県津市)で開催された。

みえメディカル研究会は、設立後2年を経過し会員数も延べ780名に達し、積極的な活動を行っている。

当日は、産学官民の関係者約130名が参加し、15年度の活動報告と今年度の活動計画案について15の研究会について各研究会主査から個別に報告がおこなわれた。また、同総会でメディカル研究会会長の改選も行われ、新会長に森野捷輔副学長が選任された。

今回は、三重県が昨年から交流を始めたドイツメクレンブルク フォアポメルン州(MV州)のバイオコンバレーの関係者による特別講演を実施し、ドイツMV州及びバイオコンバレーの紹介に続き

「ロストック大学医学部：シュタインホフ教授及びロルフス教授による講演」が行なわれ、通訳を介して熱心な質疑が交わされた。

さらに一般講演と題して、太陽化学(株) 大久保勉課長による会員企業報告と森野捷輔副学長による「三重大学の産学官連携の取り組みについて」の案内があり、総会は無事終了した。

3年目を迎える今年度は、10研究会の運営を計画しており、産学官民連携および研究開発・技術開発の促進を目指しつつ、大学等と企業間との共同研究の実現に向けての努力を継続し、三重県内の産業の発展に結びつく成果を期している。



***** 催し物行事案内 *****

「三重TLO交流会（第7回）」

日 時：平成16年7月13日（火）14：30～18：20
 場 所：三重大学講堂 小ホール
 研究室見学会：14：30～16：00
 工学部2、生物資源学部2、教育学部1研究室を2コースに分けて見学します。
 講演会：16：00～17：00
 「三重大学における社会連携・地域連携」 三重大学副学長 森野捷輔 氏
 懇親会：17：10～18：20

「平成16年度三重大学公開講座」

（企業研究者・一般市民向けに設定された講座を紹介します）

- ①パワーエレクトロニクスの新しい展開
 日 時：7月23日 9:30～17:00 講習料：6,200円
 問い合わせ先：工学部電気電子工学科教授 石田宗秋 TEL. 059-231-9389
- ②新しいバイオ技術の基礎と応用
 日 時：11月5日 10:00～17:00 講習料：5,200円
 問い合わせ先：工学部分子素材工学科教授 吉村哲朗 TEL. 059-231-9428
- ③道路交通騒音の予測及び防止技術
 日 時：7月26日 13:00～17:00 講習料：無料
 問い合わせ先：工学部物理工学科教授 久野和宏 TEL. 059-231-9397
- ④三重大学の挑戦 2004—地域に貢献する大学をめざして
 日 時：7月2日～7月26日 18:30～20:00 15時間 講習料：7,200円
 問い合わせ先：三重大学総務部総務課 TEL. 059-231-9009

県の研究助成「新商品・新技術開発支援事業」公募（予告）

経営向上を目的として行う新商品・新技術の開発等の事業に要する経費の一部を補助する。
 対 象：県内中小企業者等 公募時期：平成16年10月（本年2回目）
 助成金額：150～450万円（補助率1/2）
 問い合わせ先：（財）三重県産業支援センター技術支援チーム TEL. 059-228-3171

◆◆◆ 三重TLO会員数・共同研究等仲介数 ◆◆◆

6月11日現在の会員数は172です。なお、会員名簿を別刷りで挿入しました。ご利用ください。共同研究については詳細の紹介は避けてほしいというご意見がありますので、今回は件数のみの紹介と致します。

三重TLO 会員数

| | 平成14年度末 (平 15.3.31) | 平成15年度末 (平 16.3.31) | 現 在 (平 16.6.11) |
|-------|------------------------|------------------------|--------------------|
| 特 別 | 5 | 10 | 10 |
| 一 般 | 121 | 131 | 133 |
| ベンチャー | 20 | 29 | 29 |
| 計 | 146 | 170 | 172 |

共同研究等 仲介数

| | 平成14年度 | 平成15年度 |
|------|----------|----------|
| 共同研究 | 12 | 23 |
| 技術指導 | 2 | 3 |
| 件数計 | 14 | 26 |
| 契約金額 | 10,625千円 | 22,359千円 |

平成16年6月末現在：15件の共同研究契約進行中

三重TLO

〒514-8507 三重県津市上浜町 1515
 三重大学地域共同研究センター内
 TEL : 059-231-9822 (059-231-9763)
 Fax : 059-231-9829
 E-mail : mie-tlo@ztv.ne.jp
 http : //www.mie-tlo.co.jp